



WMF 9000 S+

取扱説明書

日本語

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

WMF 9000 S+はエスプレッソ、カフェレム、カプチーノ、カフェテ、ラテマキアート、ミルクフォーム、アイスミルク飲料、熱湯を供給する全自動コーヒーマシンです。

WMF 9000 S+ は、お好みのパウダーホップを使ってホットチョコレートを淹れて、ミルクを加えたり、温かいまたは冷たいミルクフォームをのせたりできます。



取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。

注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください
▷20℃-ジ
安全性についての章を参照
▷70℃-ジ以降



感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。

警告

安全性についての章を参照
▷70℃-ジ以降



設置・使用条件

- メンテナンス規定や「テクニカルデータ」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > 試運転調整、メンテナンス、修理に係る作業はすべて、正規交換部品を使用する条件でWMFサービス担当者によってのみ行われることが許可されています。

重要

テクニカルデータ
▷103℃-ジ以降
メンテナンス
▷93℃-ジ以降

1	安全性	7
1.1	一般的な安全上の注意事項	7
1.2	使用目的	14
1.3	設置・使用条件	17
2	序章	18
2.1	コーヒーマシンの各部名称	18
	供給可能表示	18
	取扱説明書の記号とマーク	20
	用語集	21
3	操作	22
3.1	操作に関する安全上の注意事項	22
3.2	その他書類	23
3.3	コーヒーマシンのスイッチを入れる	23
3.4	飲料供給	23
	飲料のキャンセル	24
3.5	事前選択パッド (オフ ション)	24
3.6	特別ボタン (オフ ション)	24
3.7	カップ サイズ 調整	24
3.8	熱湯供給	25
3.9	スチーム供給	26
3.9.1	オートスチーム (オフ ション)	27
3.9.2	イージースチーム (オフ ション)	27
3.10	スチームジレットカップ ウォーマー	28
3.11	ミルク/ミルクフォームの供給	29
3.11.1	WMFクーラー、WMFカップ・アノット・ケール (オフ ション)	29
3.12	高さ調整可能カップ 台	30
	自動カップ 台	30
3.13	コーヒードリンクホルダー/カップホルダー	30
3.14	マニュアル投入口	31
3.15	コーヒークラス受け	32
3.16	コーヒークラス落とし (オフ ション)	32
3.17	ドリフトトレイ	33
3.18	コーヒーマシンのスイッチを切ります	34
4	ソフトウェア	36
4.1	概要	36
	供給可能	36
	機能ライン供給可能表示	36
	メインメニューの機能	37
	メニュー制御パッド	37
	パネル上の通知	37
4.2	供給可能表示	38
4.2.1	飲料ボタン	38
4.2.2	機能ライン	38
	スチームボタン	38
	スチームジレットパッド	38
	ホットリンクパッド	38
	栄養成分情報	39
	カップ サイズ 調整	39

目次

S/M/Lパッド	39
パスタパッド - コーヒーの濃さ	39
ミルクシステム補充	39
2.コーヒー種類 (7 カイ)	40
2.ミルク種類	40
マニュアル投入パッド	40
熱湯ボタン	40
4.3 ガスターゲ	41
システムクリーニング	41
ミキサーリンス	41
ミルクシステムのクリーニング	41
ミルクシステムリンス	42
フォーマーのリンス	42
クリーンロック	42
説明	42
ミルクシステム補充 (ダイミックスミルク)	43
ドリップトレイのクリーニング	43
設定	43
スイッチオフリンス	43
クリーニング後にミルクシステムを準備	43
4.4 飲料	44
概要	44
カップ容量、複数倍の抽出と供給オプション	45
レシポの変更	47
テキスト、画像、カップ高さ	50
ボタンの入れ替え	51
4.5 操作オプション	52
操作に関する部分	52
SBモード (セルフサービス)	52
パスタパッド	52
ホットリンスパッド	53
栄養成分情報	53
メニューパッド	53
スチームジェット	53
エラー表示	54
カップサイズ調整	54
2.ミルク種類 (オプション)	54
マニュアル投入口	55
言語を選択	55
ミルクシステム補充	55
ボタンレイアウト	55
ボーストセレクション	56
カフェインフリー	56
飲料のセレクション	57
飲料のキャンセル	57
熱湯温度を選択	57
ミルクフォームの選択	58
口	58
メーカロゴ	58
お客様口	58
お客様の口をロード	58
4.6 インフォメーション	59
前回の抽出	59
タイマー	59
サービス	59
ガスターゲ	59
浄水フィルタとカルキ除去	59
プロトコル	59

4.7 会計	60
カウンター	60
自動販売機	60
外部会計	60
無料設定	61
4.8 PIN権限	61
クリーニング PIN	62
設定PIN	62
会計PIN	62
新しいPINを入力	62
4.9 タイマー	63
時刻/日付	63
タイマー	63
タイマー予定表とタイマーの設定	63
タイマー削除	64
タイマー 日別概要	64
タイマー設定	64
ボタンのレイアウト	65
エコモード	65
サマータイム	65
時刻帯	65
4.10 システム	66
クーラー	66
品質チェック(タケミツミルク)	66
プログラシタディスプレイ	67
ディスプレイと照明	67
照明	67
パネルの照度	68
ディスプレイ照度は自動的に減少	68
タッチキャリブレーション	68
パネルの背景	68
飲料:文字 + 色	68
浄水フィルター	69
エコモード	70
温度	70
挽き目設定	70
抽出圧表示	71
ボーション	71
Bluetooth (オプション)	71
S/M/L機能	72
シロップ	72
ミルク	72
栄養成分情報	73
4.11 言語	73
4.12 エコモード	73
エコモード表示	74
4.13 USB	74
レシポをロードする	74
飲料のマークをロードする	74
レシポの保存	75
レシポをPDFファイルとしてセーブする	75
カウンターのイクスポート	75
HACCPイクスポート	75
データのバックアップ	75
データをロードする	75
言語をロードする	75
ファームウェアの更新	75

目次

5	カスターマキア	76
5.1	カスターマキアについての安全上の注意事項	76
5.2	クリーニング 頻度の概要	78
5.3	クリーニング プログラム	79
5.3.1	システムクリーニング	79
5.3.2	ミキサーリンス	81
5.3.3	ミルクシステムのクリーニング	81
5.3.4	フォーマーのリンス	82
5.4	手動クリーニング	83
5.4.1	操作パネルクリーニング (クリーンロック)	83
5.4.2	コーヒー受けのクリーニング (挽いた豆のスライト / オフショウ)	83
5.4.3	ドリフトトレのクリーニング	84
5.4.4	外装のクリーニング	84
5.4.5	収集トレのクリーニング	85
5.4.6	コヒ 供給口を手作業でクリーニング シリコンキャップのクリーニング	85
5.4.7	オートスチームスチームノズルのクリーニング	86
5.4.8	ミキサーのクリーニング	87
5.4.9	コーヒー豆ホッパーのクリーニング	89
5.4.10	パウダーホッパーのクリーニング	90
6	HACCPクリーニング コンセプト	91
7	メンテナンスとカビ除去	93
7.1	メンテナンス	93
7.2	WMF サービス	93
8	メッセージと注意事項	94
8.1	操作上の通知	94
8.2	エラー通知と不具合	95
8.3	エラー通知なしの不具合	96
9	安全性と保証	98
9.1	コーヒーマシンに対する危険	98
9.2	ガイドライン	100
9.3	管理責任者の義務	101
9.4	保証請求	102
付録:テクニカルデータ		103
コーヒーマシンのテクニカルデータ		103
付録:アクセサリとスペアパーツ		107
索引		109

1 安全性



誤った使用法

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
 - > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

**警告**

1.1 一般的な安全上の注意事項

コーヒーマシンに対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません:



> 使用前に取扱説明書をよくお読みください。



> 高温になったマシン部分には触れないでください。



> コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。

> 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

**注意**



> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



- > マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばに付き添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。
- > お子様にマシンで遊ばせないでください。
- > クリーニング や1-サー-メンテナンスをお子様にさせないでください。

⚠ 注意

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の注意事項に従ってください。

感電死の危険あり

警告



- ・ コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
- > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
- > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
- > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
- > コーヒーマシンの背面にあるプラグは、電源からケーブルを外した後に引き抜きます。
- > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できなければなりません。



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- スチームジェットカップウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグライダ-に巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

 注意

指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 操作パネルを閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
- > コーヒグライダ-や抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
- > 操作パネルを閉じるときは注意しながら行ってください。
- > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。

 注意



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
 - > パウダホッパー、コーヒ豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。
-

 **注意**



健康被害のおそれ

- ミルクシステム用洗剤やクリーニングタブレットは刺激物です。
 - > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
 - > クリーニングタブレットはパネル上に通知が表示されてから使用してください。
-

 **注意**

 **健康被害のおそれ/
刺激・火傷のおそれあり**

 **注意**

-  ・クリーニング中に供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- ・高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- ・ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
-

 **スリップの危険あり**

 **注意**

-  ・コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリップの危険があるため、注意してください。
- > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
-

1.2 使用目的



誤った使用法



- ・ マシンを本来の目的以外で使用した場合、怪我のおそれがあります。
> コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。
-

- ・ WMF 9000 S+はコーヒー、ミルク、パウダー（チョコ／トッピング）を組み合わせる適切な容器に飲み物を供給するように設計されています。
- ・ 使用するコーヒー豆、ミルク、トッピング、チョコパウダー製品は全自動コーヒーマシンでの加工に適したものを使用してください。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- ・ 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。また、ご家庭でも使用していただけます。

設置場所

- 本機は教育を受けた人員が監督する環境であれば、セルフサービスで使用しても構いません。
本機はよく見える場所に設置してください。
- 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。
- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

給水接続

- TW10 (DN 10、少なくとも DN 6 または 3/8 インチ)メインロックコックとフィルタ(メッシュ幅0.2 ~ 0.25 mm)付きのホース接続(現場側で用意)。
2 l/min (低圧)で少なくとも 0.05 MPa (0.5 bar) の水圧。
最大 0.6 MPa (6 bar)。低圧: 最小 DN 6 (1/4 インチ)。
最大供給温度 35 °C。
- 新品のコーヒーマシンおよび/または浄水フィルターに付属しているホースセットを使用すること。使い古したホースは再使用しないでください。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 9000 S+はコーヒー、熱湯(飲料、クリーニング液)あるいはミルク(冷蔵、低温殺菌、牝牛乳、ロングライフミルク)を加熱・供給するためのものであり、それ以外の使用は絶対に避けてください。**

衛生

- コヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。
- 事務所やフロアでの使用など、セルフサービスでコヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがカスタマーケア措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

1.3 設置・使用条件



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータの章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグを差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。

警告

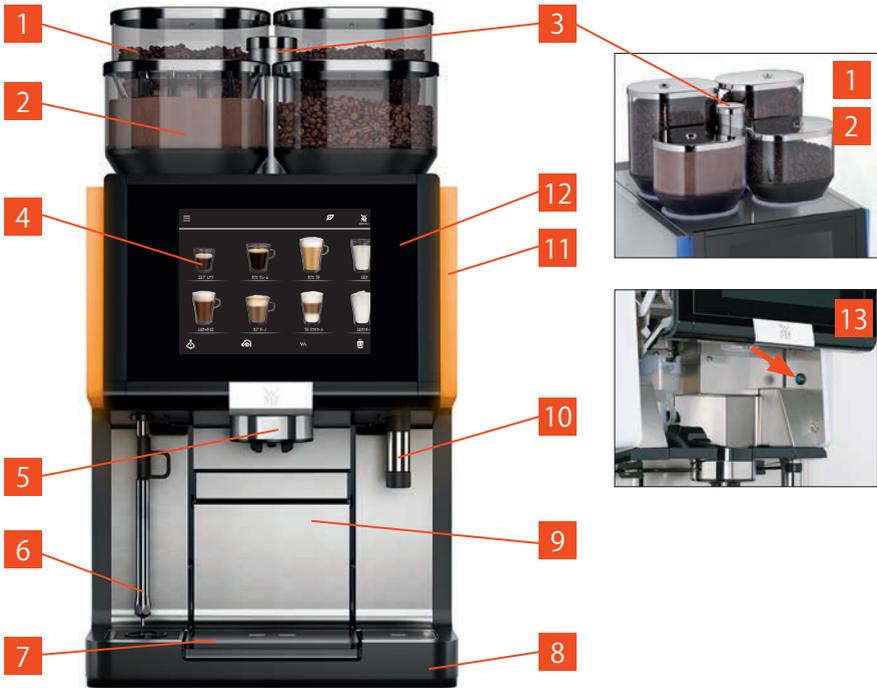
テクニカルデータ
▷ 103V - ジ

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコーヒーマシンを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。

機器の接続と使用開始の作業は必ずWMFサービスが行います。

2 序章

2.1 コーヒーマシンの各部名称



供給可能表示



ヘッドライン

機能ライン

- 1 豆ホッパ° - (最大 4つ、鍵付き)
- 2 パ°ウダ°-ホッパ° - (チョコやトッピ°ンガ° など) (オプ°ション)、ロック可能
- 3 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 4 飲料ホ°タンと設定用タッチパ°ネル
- 5 ミルクフォーマ-内蔵型コンビ°供給口
- 6 スチム/ス°ル (オプ°ション)
- 7 高さ調整可能カッ°台
- 8 取り外し可能なド°リップ°トレイ (ド°リップ°グ°リット°付き)
- 9 コーヒーカ受け
- 10 熱湯/ス°ル
- 11 サイド°照明
- 12 操作パ°ネル
- 13 オン/オフホ°タン (操作パ°ネルは開)

供給可能表示

- 14 エコモード°
- 15 メニューパ°ット° (メインメニューを開く)
- 16 飲料ホ°タン
- 17 スチムホ°タン (オートスチム/イ°ジ°-スチム、オプ°ション)
- 18 スチムジ°ェットパ°ット°
- 19 ホットリンスパ°ット°
- 20 熱湯ホ°タン

パ°ネル上のパ°ット° やホ°タンは設定やマシンモデルにより異なります。

ここに画像表示する機能は例です。

ソフトウエア▷36°-ジ°以降

取扱説明書の記号とマーク



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わない場合、操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。



感電



高温のフォーム



指などが挟まれるおそれ



高温の表面



スリップの危険あり



物損についての注意事項

- ・ コーヒーマシンに対して
- ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。



注意事項/ヒント

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。



警告

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



注意

操作に関する安全上の注意事項
▷22ページ以降
カスターマーについての安全上の注意事項
▷76ページ以降
安全性についての章を参照
▷76ページ以降

重要

保証の章に注意
▷102ページ以降
テクニカルデータ
▷103ページ以降

注意事項

ヒント

用語集

用語	解説
•	• 箇条書き、選択オプション
*	* 各作業ステップ
斜字テキスト	コーヒーマシンの状態の説明および/または自動ステップの解説
容量	例えば: 浄水フィルタ処理能力 (ℓ)
挽いた豆のサイズ	▷ コーヒーが落とし、32 ^h -ジ
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
追加	コーヒー、ミルク、ミルクフォーム、チョコやトッピングといった飲料用レシピの構成要素。
飲料供給	コーヒー、熱湯あるいはパウダー-飲料の供給
カフェインレスコーヒー	デカフェのコーヒー
コンビ供給口	標準仕様はダブル供給口オプションでシングル供給口もお求め可能。
セルフサービスモード	セルフサービス
チョコ	ホットチョコレート
バリスタ	コーヒーのスペシャリスト
パウダー-飲料	チョコやトッピングなど
プレス	抽出前の、挽いたコーヒーの自動プレス。
ミキサーシステム	パウダー-飲料用ミキサーとポーションの総称
ミルクシステム	コンビ供給口、ミルクホース
メインコック	止水栓、アングル弁
リンス	中間的な洗浄

3 操作

3.1 操作に関する安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- クリーニング後などでカップ台・ドリフトレを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。
 - > カップ台・ドリフトレが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ

- 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

3.2 その他書類

オプションによりシロップステーション

- シロップステーションの取扱説明書をよくお読みください。
- シロップステーションのクリーニング手引きをよくお読みください。

3.3 コーヒーマシンのスイッチを入れる

※ 操作パネルを上にも動かす

操作パネル裏の右側に、ON/OFFボタンがあります。

※ 信号音が鳴るまでON/OFFボタンを押します
 コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。

ホットリンスが自動的に始まります。

コーヒーマシンで飲料供給の準備が完了すると、パネルに供給可能と表示されます。

コーヒーマシンはタイマーを使ってON/OFFできます。



PINアクセス管理

▷ PIN 権限

61歳 - ジ

タイマーの入る時間を設定

▷ タイマー

63歳 - ジ

3.4 飲料供給

飲料パネルのボタンをタッチすると、設定した飲料の供給が開始されます。

- ボタン点灯 = 供給可能
- ハッチの点灯していないキー/赤い三角 = 供給不可/パネルが無効

※ コヒ供給口下のカップ台に適切なサイズのカップを配置します

※ 希望の飲料パネルにタッチします



飲料選択

パネルアウト

▷ 操作オプション

55歳 - ジ

飲料のキャンセル

※ タッチした飲料ボタンをもう一度タッチ

飲料のキャンセル
▷ 操作オプション
57ページ参照

3.5 事前選択パッド (オプション)

モデルによっては、マニュアル投入パッドや
カフェインフリーパッドなどの事前選択パッドをパッドで利用
できます。

これらのパッドは、飲料ボタンで飲料を決定する前に
希望する事前選択を行うための事前選択パッド
です。



例:
マニュアル投入パッド および
カフェインフリーパッド
▷ 38ページ参照

3.6 特別ボタン (オプション)

オプションで、飲料サイズSとL用の特別ボタンをパッドで利
用できます。これらのボタンは、飲料を選択する前に
希望する飲料サイズを決定するための事前選択ボタン
です。

M = 設定した飲料サイズ、フル選択なし
S = 約25% Mより少ない
L = 約25% Mより多い



例:
S/M/Lパッド

3.7 カップサイズ調整

オプションとして自由なカップ容量の選択が可能です。
設定により、飲料選択後のカップ容量を選択後のモード
で調整できます。



3.8 熱湯供給

- ※ 熱湯の供給口の下に適切なサイズのカップを配置
 - ※ 熱湯のボタンをタッチする
- 設定した供給オプションに応じて供給が始まります。
供給オプション「供給」で容量選択が可能です。



ソフトウェアで「熱湯温度レベル選択」が有効になっている場合、熱湯ボタンをタッチしたら3つの供給温度が選択できます。

注意事項

熱湯温度レベル選択
▷ 操作オプション
57° -ジ

「熱湯温度レベル選択」有効時

- ※ 熱湯のボタンをタッチする
 - ※ 希望の水温ボタンにタッチする
- 供給が行われます。

3.9 スチーム供給



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料を供給する前に、必ず適切なカップ[®]を抽出口下に置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 90 °C 以上の設定温度では、ミルクやミルクフォームが噴きこぼれるおそれがあります。
 - > 容器の最大半分まで充填する。

⚠ 注意



- > ミルクを泡立てている時はミルクの量が減らないよう、過熱させないでください。

ヒント

3.9.1 オートスチーム(オフ ション)

オートスチームオフ ションで、ミルクの加熱または泡立てを行います。

スチームキーで直接ミルクを設定したフォームの品質になるまで泡立てます。または、最大3種類のフォーム品質レベルを選択して呼び出すことができます。

選択可能なミルクフォームの質:

- 標準
- ファイン
- スーパーファイン

さらに、オートスチームにはもう1つミルクキーがあります。

ミルクの加熱または泡立て

※ 希望するミルクの量を高さのある細いコップに入れます

コップには最大で半分までミルクを入れるようにし、フォームするときにあふれないようにします。

※ スチームノズルをミルクの中に浸す

※ 希望するオートスチームボタンを短く押す

オートスチームボタンの割り当てに従って、スチームが噴射されます。

スチーム供給は設定温度に達するか、オートスチームボタンを再度押すと終了します。

※ スチームボタンを短く押す

スチームパイプ内の残りを洗浄します。

※ 湿らせた布でスチームノズルを拭く

3.9.2 イーゼー-スチーム(オフ ション)

イーゼー-スチームのスチーム供給で飲料を温められます。

ミルクはマニュアルで空気を取り入れることでフォームを作ることができます。



スチームボタン



ボタンの割り当て

▷ 操作オフ ション

55℃ -ジ

レシクの変更

▷ 飲料

44℃ -ジ

3.10 スチーム エットカップ ウォーマー



火傷の危険/火傷のおそれあり



- スチーム エットカップ ウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。



- > 耐熱性のカップを使用してください。
- > スチーム供給前には、必ずカップを逆さまにしてカップウォーマーの上に置いてください。
- > 供給直後には周辺の表面に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触れないでください。
- > ドリップグリッドやカップウォーマーなしの状態では、スチーム エット機能を絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 76 ページ以降
ドリップトレイは毎日クリーニング
▷ ガスマーク
76 ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- スチーム エット機能はカップを温めるためのものですので、クリーニング用には使用しないでください。
- > カップを温めるときは、必ず洗浄して間もないカップをご使用ください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 76 ページ以降

スチーム エットカップ ウォーマーは高温の蒸気でカップを加温します。

* カップウォーマーの上に、カップを下向きにして配置する

* パッド  をタッチする

高温のスチームが、下からゆっくりとカップの中に流れ込みます。

スチームは、最大で設定した時間分だけ流れ込みます。

* スチーム エットパッドをもう一度タッチ

直ちにスチームの流れが止まります。



スチーム エットパッド 有効/無効
▷ 操作ガイド ショウ
53 ページ

3.11 ミルク/ミルクフォームの供給

- * コヒ[®] 供給口の下に適切なサイズ[®] のカップ[®] を配置
 - * ミルクまたはミルクフォームに割り当てられた飲料ホ[®] タンを
タッチする
- 設定した供給オ[®] ションに応じて供給が始まります。

供給オ[®] ション
▷ カップ 容量
45ℓ -ジ
スタートストップ[®] または供給

3.11.1 WMFクーラー、WMFカップ[®]・ア[®]ント[®]・ケ[®]ール (オ[®] ション)

- * ミルク容器をクーラーから外す
- * ミルク容器のフタを後ろにずらす
- * ミルクをミルク容器に注入
- * フタを再び容器の上にセット
- * ミルクホースのア[®]ダ[®]プ[®]ターをミルク容器の蓋にある接続口
に挿入
- * ミルク容器を慎重に押し戻す

ミルクホースをア[®]ダ[®]プ[®]ターに差し込みます。



3.12 高さ調整可能カップ台

自動カップ台

自動カップ台では一緒に飲料のカップ高さが保存されます。飲料供給前にカップ台が自動で最適な高さに調整されます。

カップ高さ > 51° -ジ

195 mmまでの調整範囲



3.13 コーヒー豆ホッパー - パウダホッパー -

- ホッパーは、できるかぎり適時に補充してください。
- 製品の鮮度を維持するため、ホッパーには最大でも一日分しか入れないでください。



- ! 異物が混入するとコーヒーグラインダーが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。
 - > パウダホッパーに過度に充填しないでください。
 - > パウダホッパーは押し付けたり圧縮したりしないでください。

重要

保証の章に注意
> 102° -ジ以降

3.14 マニュアル投入口

マニュアル投入口はコーヒーマシンの蓋の中央に取り付けられています。

マニュアル投入口の用途

- カフェインフリー等、異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- 試しにコーヒーを淹れるとき
- クリーニング タブレットの投入口



- 挽いたコーヒーやクリーニング タブレットはパ° 皿上で通知されてから投入してください。
- マニュアル投入口の場合は、挽いたコーヒーのみを使用してください。
- インスタントコーヒーパ° ウターは使用しないでください。
- 挽いたコーヒーが細かすぎる場合は、使用しないでください。

重要

保証の章に注意
▷102パ° -ジ° 以降

マニュアル投入口により挽いたコーヒーでコーヒーを淹れる (オプション)

- * プ° 選択パ° ットの「マニュアル投入」をタッチする
- * 希望の飲料ボ° タンにタッチします
マニュアル投入口が自動で開きます。
- * 計量スプ° ン(小)を使用して、希望する分量のコーヒー粉を入れる(最大 16 g)
- * マニュアル投入を閉じる
選択した飲料が供給されます。



3.15 コーヒー受け

コーヒー受けには、使用済みの挽いたコーヒーが排出されます。コーヒー受けには抽出約70回分のコーヒーが収まるようになっています。

コーヒー受けを空にする必要がある場合、パ° 社上° にその旨の通知が表示されます。コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

- * コン° 供給口を上げる
- * コーヒー受けを外す
- * コーヒー受けを空にして再びセット
- * プ° セスをパ° 社上° で確定する



- > コーヒー受けを空にせずに設置すると、コーヒーがあふれ出ます。コーヒーマシンが汚れ、マシンの損傷につながるおそれがあります。
- > コーヒー受けを設置するときは、常に空の状態でご設置してください。
- > コーヒー受けを上手く設置できないときは、タ° 外° にコーヒーが残っていないかチェックし、残っている場合には取り除いてください。

3.16 コーヒー fallout (オ° ション)

コーヒーマシンにはコーヒー fallout を取り付けすることができます。このタイプ° では、コーヒー受けとコーヒーマシンの底に開口部が設けてあり、現場のマシンカウンター台の開口部に続いています。コーヒーは、マシンカウンター台下にある個別容器へと排出されます。



コーヒー受けのクリーニング
▷ 手動クリーニング
83° -ジ°

重要

保証の章に注意
▷ 102° -ジ° 以降

重要

挽いた豆のスライ° を毎日クリーニング
▷ 手動クリーニング
83° -ジ°

3.17 ドリップトレイ



火傷のおそれ



- ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷78°-ジ以降
ドリップトレイは毎日クリーニング
がタマ-キア
▷76°-ジ以降



排水用接続部があるコーヒーマシンでは、ドリップトレイも取り外せません (クリーニングのためなど)。

注意事項

排水用接続がないコーヒーマシンでは、ドリップトレイを定期的に空にしなければなりません。

* ドリップトレイを慎重に取り外して空にし、再びセット



3.18 コーヒーマシンのスイッチを切ります



衛生面に注意

- ・ コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリーニングを行ってください。



取扱説明書を確認

- ・ 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

※ 操作パネルを上に動かす

操作パネル裏の右側に、リセットボタンがあります。

※ 信号音が鳴るまでリセットボタンを短く押します
コーヒーマシンのスイッチが切れます。

※ 主電源からプラグを抜く

※ 水道のメインコックを閉める

注意

安全性についての章を参照

▷76ページ以降

取扱説明書に従ってコーヒーマシンをクリーニングしてください。

カスタマーケア

▷76ページ以降

重要

保証の章に注意

▷102ページ以降



PINアクセス管理

▷PIN 権限

61ページ

4 ソフトウェア



- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
- > 操作についてのすべての安全上の注意事項に従ってください。

⚠ 注意

操作に関する安全上の注意事項
▷22^o-ジ

4.1 概要

供給可能

38^o-ジ



ボタンアウト
▷操作オプション
55^o-ジ

パネル上のパッドやボタンは
設定やマシンモデルにより異なります。

機能ライン供給可能表示

38^o-ジ



スチームジェットカップウォーマー



エコモード (有効)



飲料サイズ (S/M/L)



ホットリンス



マニュアル投入口



バリスタ (コーヒーの濃さ)



2.コーヒー種類 (デカフェ)



熱湯



ミルクシステム補充



カップサイズ調整



栄養成分情報



2.ミルク種類



スチームボタン

メインメニューの機能

41[°] -^ジ以降

カスタマーケア
41[°] -^ジ



飲料
44[°] -^ジ



操作オ[°]ション
52[°] -^ジ



インフォメーション
59[°] -^ジ



会計
60[°] -^ジ



PIN権限
61[°] -^ジ



タイマー
63[°] -^ジ



システム
66[°] -^ジ



言語
73[°] -^ジ



エコモード
73[°] -^ジ



USB
74[°] -^ジ

メニュー制御パ[°]ット



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料テスト



設定のロード



戻る



設定の保存



キーボード表示

パ[°]ル上の通知



パ[°]ント/エラー通知



ミルク温度の表示(オ[°]ション)

4.2 供給可能表示

パネルの供給可能表示は、コーヒーのオプションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ボタン

供給可能なすべての飲料ボタンで照明が点灯しています。

選択したキーレイアウトによってはパネル上を水平にワイプすることで他の飲料に進むことができます。

希望する飲料ボタンをタッチすると、飲料供給が開始されます。



例: カプチーノボタン
ボタンレイアウト
▷ 操作オプション
55° - ジ

4.2.2 機能ライン

スチームボタン

スチームボタンで熱いスチームが排出され、飲料を温められます。

スチームボタンではミルクのフォームを作ることができます。



スチームジェットボタン

カップの温め。



スチームジェットボタン 有効/無効
53° - ジ

ホットリンスボタン

※ 「ホットリンスボタン」をタッチする

コーヒー管路に熱湯が流れてリンスが始まります。これによって抽出装置が加温され、最適なコーヒー温度が保証されます。

長い間抽出しなかった後で、特にエスプレッソを供給する前の使用をお勧めします。



ホットリンスボタン 有効/無効
▷ 操作オプション
53° - ジ

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。



栄養成分情報
▷ 操作オプション
53° -ジ

カップ サイズ 調整

次の飲料の飲料サイズ 選択。



カップ サイズ 調整
▷ 操作オプション
54° -ジ

S/M/L パット

飲料サイズ のパッド選択。事前に飲正しく定する必要があります。



S/M/L
▷ ソフトウェア
▷ システム
72° -ジ

パッド - コーヒーの濃さ

	表示	コーヒーの濃さ
押さない	コーヒー豆2つ	ノーマル、設定通り
1回タッチ	コーヒー豆3つ	設定より15%濃い *
2回タッチ	コーヒー豆1つ	設定より15%薄め *

* 1回の抽出で使える挽いたコーヒーの最大量は19g
コーヒーの濃さを変更すると、その後1回の抽出分だけ濃さを変更されます。



パッド有効/無効
▷ 操作オプション
52° -ジ

ミルクシステム補充

自動ミルクシステム補充。



ミルクシステム補充
▷ 操作オプション
55° -ジ

2. コーヒー種類 (デカフェ)

- ※ まず「カフェインフリー」のマシングラインダ-を割り当てます
- ※ 操作オプションで「カフェインフリー」を選択します
チェックの付いた豆のマークが機能パネルに表示されます。
- ※ 飲料選択前に、このマークをタップします
次の飲料供給の準備では、カフェインフリーでコーヒングラインダ-の豆を用意できます。



2. コーヒー種類
▷ 操作オプション
56° -ジ

2. ミルク種類

2 つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。



2. ミルク種類
▷ 操作オプション
54° -ジ

マニュアル投入パッド

マニュアル投入パッドは、別の選択パッドです。
飲料選択前にマニュアル投入パッドがタップされる場合、パネルがマニュアル投入でコーヒ-粉を補充するようリクエストしてきます。事前に豆挽きを済ませた別の種類のコーヒ-を使用できます。



マニュアル投入 有効/無効
▷ 操作オプション
55° -ジ

熱湯ボタ

熱湯供給用熱湯ボタ。設定によっては、熱湯ボタを押した後、2種類の各飲料サイズで供給する熱湯を3つの異なる温度から選択可能です。
また、熱湯用の飲料ボタが用意されている場合もあります。



熱湯温度別選択
▷ 操作オプション
57° -ジ

4.3 カスタマーケア



メニュー制御パッド
▷概要
37^o-ジ

カスタマーケア
▷76^o-ジ以降
HACCPクリーニングコンセプト
▷91^o-ジ以降

シロップステーションの機能と設定
▷シロップステーション取扱説明

システムクリーニング^o

システムクリーニング^oの後にコーヒーマシンのスイッチを切る、切らないの選択が可能です。

ミキサーリンス

ミキサーリンスは中間的に行われるミキサーのクリーニング^oです。

ミルクシステムのクリーニング^o

ミルクシステムクリーニング^oは単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていなかった時に有効です。ミルクシステムクリーニング^oではミルクシステムクリーニング^oを行います。



システムクリーニング^o

システムクリーニング^o
▷カスタマーケア
79^o-ジ以降



ミキサーリンス

ミキサーリンス
▷カスタマーケア
81^o-ジ



ミルクシステムのクリーニング^o

ミルクシステムのクリーニング^o
▷カスタマーケア
81^o-ジ

ミルクシステムリリース

クリーニング中、クリーニング完了後にミルク飲料をリリースするか聞かれます。「いいえ」を選択した場合、その結果、ミルクなしで飲料が注がれます。「ミルクシステムリリース」でミルク飲料がまた供給できるようになります。

フォームのリリース

フォームのリリースは中間的に行われるミルクフォームのクリーニングです。

クリーンロック

※ **クリーンロック** をタッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパネルのクリーニングを行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。

説明

使用可能なクリーニングプログラム、ミキサーやクリーニング用コンロ供給口の脱着方法が画像で分かりやすく説明されます。



フォームのリリース

フォームのリリース
▷ カスタマーケア
82° -ジ°



クリーンロック

操作パネルのクリーニング
▷ カスタマーケア
83° -ジ°以降



説明

クリーニングの間隔概要
▷ ケア
78° -ジ°

ミルクシステム補充(ダ イミックミルク)

この機能により、コールド 飲料供給のためにミルクシステムを充填します。

* **ミルクシステム補充** をタッチする



ミルクシステム補充

ド リップ°トレのクリーニング°

カップ°台は「ド°リップ°トレのクリーニング°」パ°ット°を押すと高さが上がります。その後、ド°リップ°トレを清掃できます。



ド°リップ°トレのクリーニング°

ド°リップ°トレのクリーニング°
▷ カスタマーケア
84° -ジ°

設定



設定

スイッチ オフ リス

選択オ°ション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 最後にクリーニング°を実行してからミルク飲料を供給している場合には、コーヒーマシンのスイッチを切る際に、スイッチオフリスを実行しなければなりません。

クリーニング°後にミルクシステムを準備

選択オ°ション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 ミルクシステムクリーニング°後、マシンは通常オ°になりません。機能が有効になっている場合、パ°レータ°はミルクコンテナのクリーニング°後最大15分間再度電源を入れて使用できます。これで、コーヒーマシンは次回起動時に再度運転準備が整います。

4.4 飲料



概要

供給テスト

大半の飲料設定では、レシピを保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。



例: カプチーノボタン

※ 設定を希望通り変更

※ 「供給テスト」パッドをタッチ

新しい設定値に従って飲料が供給されます。

※ 新しい設定値の飲料が満足いくものであれば、「保存」アイコンをタッチ
レシピが保存されます。

レシピの保存

変更されたレシピが保存されます。



レシピをロードする

保存されているレシピが飲料ボタンにロードされます。

※ 飲料ボタンにタッチ

※ 「レシピをロードする」パッドをタッチ

サブメニューが開きます。

※ 希望するレシピをマークする

※ 「レシピの保存」パッドをタッチ

飲料ボタンに新しく選択したレシピが割り当てられます。



カップ容量、複数倍の抽出と供給オプション



カップ容量

希望するカップ容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。

S/M/L機能

S/M/L機能は「システム」メニューで有効にできます。基本的に、どの飲料でもデフォルトのカップ容量に対する差分を操作オプションで変更することができます。

その他の各飲料では、S/M/L量はカップ容量オプションから変更でき、

各サイズを有効/無効に個別設定することもできます。無効にすると、各飲料のサイズを選択できなくなります。

S-M-Lを有効にして全飲料を変更

▷システム
▷S/M/L
72° -ジ

特別ボタン
▷操作
24° -ジ

カップ容量 S-M-L

レベルがSとLサイズのために作成されます。Mは設定通りとなります。

標準値:

S=設定値より25%減量

L=設定値より25%増量

	S	M	L
	72	97	122
	73	98	123
	74	99	124
%	75	100	125
	76	101	126
	77	102	127
	78	103	128
	<input checked="" type="checkbox"/> S - 有効	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="checkbox"/> L - 有効

飲料ごとにS/M/Lを変更
▷カップ容量

複数抽出

飲料は設定の複数倍抽出されます。ボタンを1回押すだけで、設定量の最大12倍までの供給ができます。コーヒーやミルク入りミックス飲料、供給タイプ「供給」の熱湯で利用できます。

供給ボタン

- **スタートストップ**
供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。
- **スタートストップ フリーフロー**
ボタンを軽く押すとスタートストップ供給となります。ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。
- **フリーフロー**
ボタンを長押ししている間だけ、飲料やスチームが供給されます。
- **供給**
設定した量が供給されます。供給ボタンはミルク、ミルクフォーム、熱湯で表示されます。

供給ボタンでは、熱湯、ミルク、ミルクフォームの設定が可能です。

レシピの変更



メニュー制御パレット
▷概要
37ページ

☰

カフェー飲料設定

レシピの変更

現在のレシピ構成：

エアレック 9g、35ml					
フォムクリーム 140 ml					

供給順序 -> 176 ml 当たりのおおよその量

保管追加物 初期値：

コーヒ	ミルク	コールドミルク	ミルク一旦停止	フロッ
エアレック	ミルクフォーム	コールドフォーム	熱湯	一旦停止

希望する追加物にタッチしたままドラッグします。

✕
☰
?
☰

現在のレシピ構成

レシピに含まれている追加オプションがここに表示されます。

作成手順は左から右に表示されます。上下に並んでいる追加オプションは同時に処理されます。

希望のオプションを技術上の理由により選択できないときは、ソフトウェアによって通知が出されます。

工場出荷時設定で用意されている追加オプション

レシピに追加できる追加オプションはここに表示されます。

※ 希望する追加物を押し、レシピ作成でもう一度希望する位置を押し

追加物がすぐに希望する位置に追加されます。

追加オプションの削除

マークのついた追加オプションを現在のレシピ構成から削除します。



追加オプションの変更

※ 追加オプションをマークし、「追加オプションの変更」をタッチ
「追加オプションの変更」のメニューが開きます。
選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。
保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエリアによって保存された値



工場出荷時の設定値

コーヒー粉の量

単位:グラム(g)



水量/ミルクの量

単位:ミリリットル(ml)



抽出温度

摂氏温度(°C)表示



ダ イミックミルク ミルクフォームの仕上がり品質

ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、各飲料に合わせてミルクフォームの仕上がりを調節できるようになっています。

1つの飲料に異なる仕上がりのミルクフォームを組み合わせることができます。

- しっかり** しっかりとしたミルクフォーム。ブ ラウンエッジ のか プ チーノやミルクフォームの見た目を重視する飲料で、バ ランスの取れたミルクの風味を出したいときに最適です。
- シキ-** キメの細かいミルクフォーム。バ ランスの取れたミルクの風味を際立たせたいか プ チーノに適しています。理想的なコーヒーとミルクの組み合わせ。
- クリーミー** つやのあるミルクフォーム。ミルクの風味のバ ランスが取れており、コーヒーとミルクの組み合わせが良好なミルク飲料に最適です。
- ふんわり** 空気をたっぷりと含んだフワフワと軽いミルクフォーム。どちらかというところ粗い感じの泡でバ ランスの取れたミルクの風味が特徴です。

コーヒーの品質

コーヒーの抽出は、品質レベルによって変化します。品質レベルを高くするほど、抽出されるコーヒーの香りと味が強まります。



品質レベル

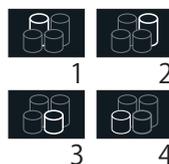
- 1 70 °C 以後、挽いたコーヒーが水を含むようにするためのスプレッドが与えられます。
- 2 70 °C 以後直後から抽出が始まります。
- 3 70 °C 以後、湿らし行程に入ります。
- 4 70 °C 以後と湿らし行程後、2 回目のウェットプレスを行います。
- 5 品質4と同様ですが、さらに強くウェットプレスします。
- 6 品質5と同様ですが、さらに強くウェットプレスします。
- 7 品質6と同様ですが、さらに長くウェットプレスします。

注意事項

抽出用熱湯がわずかな状態で非常に細かいコーヒー粉を使用すると、品質レベルが高い場合は抽出用熱湯エラーが発生することがあります。

コーヒーラインダ-を選択

コーヒー粉の挽く分量全部は10に相当します。全分量は各種ラインダ-を合わせることができます。そのため、様々な個別のレシピが可能です。



レシピ、画像、カップ高さ



メニュー制御パッド
▷ 概要
37° -ジ

レシピと画像

ここで飲料の名称と飲料別の画像を設定します。キーボードパッドにタッチしてキーボードを有効にします。

個別の飲料画像を読み込む
▷ USB
74° -ジ

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

カップ 高さ

飲料のカップ 高さはここで設定します。
右側のカップ アイコンにはカップ 高さが割り当てられています。この高さはアイコンを短く押すと保存されます。

サイズ「S」および「L」の飲料は、飲料ホッタン選択前にサイズを選択する必要があります。

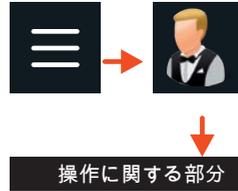
ホッタンの入れ替え

2つの飲料ホッタンが入れ替わります。

- ※ 飲料ホッタンにタッチ
- ※ 「ホッタンの入れ替え」パッドをタッチ
- ※ 入れ替える飲料ホッタンにタッチ



4.5 操作オプション



操作に関する部分

SBモード (セルフサービス)

セルフサービスモードのために、いくつかの機能を無効にすることができます。無効にしておくと、この機能と該当するパッドが画面に表示されません。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

セルフサービスモードを有効にすると、直ちに以下のように設定されます。

- バリスタパッド: 無効
- ホットリンスパッド: 無効
- 栄養成分情報: 有効
- メニューパッド: 無効
- スチームジェット: 無効
- エラ表示: 記号
- カップサイズ調整: 無効
- 2.ミルク種類: 無効
- マニュアル投入口: 無効
- 言語プレ選択: 有効
- ミルクシステム補充: 有効
- 飲料プレレクション: 無効
- 飲料のキャンセル: 無効

- バリスタパッド
52ページ
- ホットリンスパッド
53ページ
- 栄養成分情報
53ページ
- メニューパッド
53ページ
- スチームジェット
53ページ
- エラー表示
54ページ
- カップサイズ調整
54ページ
- 2.ミルク種類
54ページ
- マニュアル投入口
55ページ
- 言語プレ選択
55ページ
- ミルクシステム補充
55ページ
- 飲料プレレクション
57ページ
- 飲料のキャンセル
57ページ

バリスタパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

ホットリンスパッド

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

栄養成分情報を更新する
▷システム
▷栄養成分情報
73ページ

メニューパッド

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何もないところを二回押すとメインメニューに戻ります。

スチームジェット

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

エラー表示

エラーはパネルのヘッダーにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

カップサイズ調整

自由なカップ容量の選択を、操作オプションで有効にできます。

カップ容量は飲料選択の前に、使用するカップサイズに適合させることができます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

レギュラー上のカップを右にずらすと、カップ容量が増加し、左にずらすとカップ容量が減少します。

カップ容量はパーセント単位で表示されます。

レギュラーは中央 設定どおり100%

レギュラーは左端 50%減少

レギュラーは右端 50%増加



この機能はS/M/Lサイズ選択が有効の場合一緒に使用できません。

2. ミルク種類 (オプション)

ここでは2つ目の種類のミルクを有効化できます。2つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

マニュアル投入口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

言語別選択

飲料設定について、言語と国旗の別選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語別選択」はここで有効にするか、キーアウト「SB+フラグ」の選択により有効化可能です。

ホ タンアウト「SB+フラグ」
▷ ホ タンアウト
55ページ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

ミルクシステム補充

この機能はミルクシステムを満タにします。ミルクシステム補充はここで有効にできます。

ミルクシステム補充
▷ カスタマーケア
43ページ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

ホ タンアウト

種々の標準ホ タンアウトがここに保存されており、選択できるようになっています。


ホ タンアウト

ホ° ストレクション

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効 無効

有効 飲料の選択後、コーヒーのタイプ° と飲料サイズ° を選択できます。

コーヒーのタイプ° の名称とサイズ° は変更できません (ミルクの種類、シロップ° の種類、コーヒーの種類、S/M/L)。

表示やオプションは各種装備により異なります。

- サイズ° 1、2、3
- ホ° ショナー 1、2、3、4
- ミルクの種類 1、2
- コールド° 飲料
- シロップ° 1、2、3、4 (オプション)

セルフサービスモード° のために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておくと、機能と該当するパッド° が画面に表示されません。



ホ° ストレクション

ホ° ストレクション機能に使用するオプションをメニュー「システム」で有効にします。

システム
▷66ページ

カフェインフリー

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効 無効

デ° カフェ係数

ここでデ° カフェ係数を入力します。

デ° カフェ (デ° カフェのコーヒー) のコーヒー粉の量は、レシ° に設定されているコーヒー粉の量に対する割合で設定します。この設定はあらかじめ「デ° カフェ」を設定すると、全てのコーヒー飲料に対して有効となります。

設定範囲: -25%から15%

標準値: 10%



カフェインフリー

デ° カフェ係数を15%にした場合、例えばカフェクレームの作成ではデ° カフェ機能により、挽いたコーヒーを15%増量して抽出されます。

飲料フ レレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 事前に選択された飲料はさらに押さなくても供給されます。
ヘッドラインには「飲料フ レ選択有効」と表示されます。



飲料フ レレクション

飲料のキャンセル

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 飲料ボタンを再度押すと、飲料供給を中断できます。



飲料のキャンセル

熱湯温度フ レ選択

3段階の熱湯温度を70～95℃の間で設定できます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 熱湯ボタンを一度押すと2種類のサイズで3段階供給温度が提案されます。

無効 温度選択はできません。
熱湯温度が事前設定されています。



熱湯温度フ レ選択



ミルクフォームの選択

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効



ミルクフォームの選択

ミルクフォーム選択はオートスチームオプションでのみ可能です。

口

メーカー口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 メーカー口は準備完了パネルの右上に表示されます。

お客様口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客口が読み込まれている場合、顧客口は運転準備完了時にヘッドライン中央に表示されず、自動販売機と接続されている場合、顧客口が左に表示されます。この場合、口を両方表示することはできません。

お客様の口をポート

顧客口入りの USB スティックを挿し込みます。顧客口を読み込みます。

顧客口 (大)

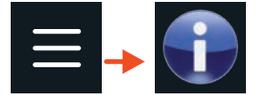
口は最大 80 ℓ/ケルまで許容されます。それより大きい口は自動でこの大きさにサイズ変更されます。



口

4.6 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン・オフ時刻が表示されます。



サービス

WMF サービスの連絡先。
コーヒーマシンのシリアルナンバー。



カスタマーケア

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとカスタマーケアの記録が表示されます。



浄水フィルタと加糖除去

浄水フィルタの残り容量と次回加糖抜ききのタイミングのインフォメーションが表示されます。

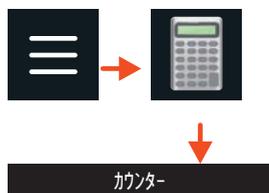


プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのジャーナル。



4.7 会計



カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

プログラムはUSB出力によって読みだすことができます。

会計		カウンター			
ダブル エア レッツ マツキート	1	2	3	4	
エア レッツ	2	2	2	2	
エア レッツ	1	1	1	1	
エア レッツ マツキート	1	1	1	1	

標準設定

カウンター 1 = 1日のカウンター

カウンター 2 = 1週間のカウンター

カウンター 3 = 1ヶ月のカウンター

カウンター 4 = 1年のカウンター

 それぞれのカウンターはリセット可能です。

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ウィータ-会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

割引設定はカ°ションの会計機器と一緒に利用できません。



飲料設定

すべて無料

選択カ°ション: 有効 無効

標準値: 無効

飲料無料

選択カ°ション: 有効 無効

標準値: 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

4.8 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計



PINには序列が設けられています。

例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能
です。PINを割り当てたエリアには、PIN入力なしでは
アクセスできません。

クリーニング PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

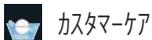


カスタマーケア



設定PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：



カスタマーケア



タイマー



飲料



システム



操作オプション



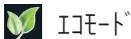
言語



会計(「削除」なし)



USB

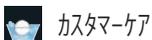


エコモード



会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：



カスタマーケア



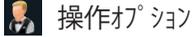
PIN



飲料



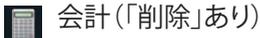
タイマー



操作オプション



システム



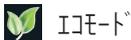
会計(「削除」あり)



言語



USB



エコモード



会計 PIN を使用して他の PIN
番号を両方変更できます。会計
PIN を忘れた場合、サービス担当者
によってのみ PIN をリセット可能
です。

新しいPINを入力

アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番
号を入力して新しい PIN を発行します。



4.9 タイマー

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。

タイマー

ここで、タイマー機能のオン/オフを切り替えられます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのオン/オフ時刻の概要



時刻/日付

タイマー

タイマーの概要

スイッチを入れる時間の変更は日別表示でのみ可能です。

タイマー削除

削除マークで、あらかじめマーク[®]していたタイマーを削除できます。



タイマー日別概要

日間・週間予定表を切り替えます。日別概要には、当日のスイッチを入れる時刻が表示されます。



タイマー設定

タイマーを介してスイッチを入れられる以下の機能があります。

- ホットアウト
- Ecoモード
- 予約タイマー



 スwitchを入れる時間の変更は過去に遡って適用はされず、変更を行った日時以降の情報にのみ適用されます。

注意事項

- * 希望するタイマーの機能を選択します
- * 1日または複数の日にちを選択します
- * タイマー スwitch時間を設定します

スイッチを入れる時間はあらかじめ選択された日にちに対して設定されます。

確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

ボタンのライト

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

有効 ボタンのライトをタイマーによって自動的に割り当てることができます。


ボタンのライト

モード

ここでは、モードのタイマー-時間を設定可能にするかを設定します。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効


モード

サマ-タイム

ここでは、サマ-タイムに自動で切り替えるかを設定できます。
リモート-モジュールが取り付けられていなければ、メニューを利用できます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効


サマ-タイム

時刻帯

ここではタイムゾーンを設定できます。


時刻帯

4.10 システム

クーラー

ミルクの保管温度

ミルク供給温度はここで入力します。
 カップ・アンド・クールの使用時、例は 8 °C 以下。

お表示

ミルクが空になった時に通知を起こすかをここで設定します。空になった時の通知は、飲料ロックと関連づけられます。これは、特にサービスセルフサービス運転の際に必要で、これにより支払いを終えた飲料は満タリに供給されます。

温度センサ

ミルク温度の計測

品質チェック(ダ けミックミルク)

ミルクシステムでのミルク温度変更、ミルクフォーム量変更、ミルクフォーム品質変更が外的に影響することがあります。
 「品質チェック」メニューで基本設定を再度行えます。

- * 青いクリーニング ホッパ - に冷水を満たす
- * ミルクフォームをつなげる
- * 容量が 500 ml の計量カップ を供給口に置く
- * キャブレーションを開始する
- * 500 ml (+/- 20 ml) の計量カップ がいっぱいになったら、キャブレーションは停止する



クーラー



温度監視付
 カップ・アンド・クールオプションで可能です。



品質チェック

フロースディスプレイ

選択オプション: ライン、円、ガラス、木

標準値: ライン



フロースディスプレイ

ディスプレイと照明

照明

点灯色はここで設定します。
カーソルの三角形で希望の色を設定してください。RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色の変更 ゆっくり
- 色の変更 標準
- 色の変更 速く
- 木

ただちに現在の設定が表示されます。



ディスプレイと照明



供給可能な場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示 (通知)

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 メッセージ 表示中、照明の調整ができます。

例えば「コーヒー豆を空にする」通知です。

メッセージ (イベント) の照明

- イベントカー側板

パ° 祉の照度

パ° 祉の照度はここで設定します。

ディスプレイ照度は自動的に減少

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にパ° 祉照度が自動的に減少します。

パ° 祉の照度が暗くなっている状態でパ° 祉に一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチパ° 祉のキャリブレーションを新たに行います。

パ° 祉の背景

タッチパ° 祉のカラーデザインを設定できます。

- メインパ° -ジのカラー
- その他のパ° -ジの色

飲料:文字 + 色

ここで、文字サイズと色の変更を設定できます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

浄水フィルター

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルターの容量と水の硬度の入力が必要です。

硬度の計測

測定した水の硬度を $^{\circ}$ dKH単位で入力します。
炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。



水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの故障が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。
これにより損害が生じても保証は適用されません。

水硬度測定

※ 飲料水の水の硬度は、水道事業者に照会するか、アクセサリにあるWMF 炭酸硬度テスト(説明書付き)を使用して検出する

総硬度の計測

ここには総硬度を入力します。

フィルタ容量

浄水フィルターが有効になっている場合、ここにフィルターの容量をリットル単位で入力します。



浄水フィルター

注意事項

弊社は原則浄水フィルターの使用を推奨しております。適切な浄水フィルターの選択につきましては、担当のWMFサービスパートナーがご相談に応じます。

注意事項

ソフト

ここではソフトを有効にできます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

スイッチ

オプションなし 30 min/60 min/90 min/120 min/
150 min/180 min 不可。

標準値: いろいろ

温度

ここではボイラーの水温を設定します。
(コヒー抽出水温度)

挽き目設定

挽き目はディスプレイ上で設定します。

- 挽き目グライダ - 1
- 挽き目グライダ - 2
- 挽き目グライダ - 3

小さい値 -> 細挽き

高い値 -> 粗挽き

0.25ごとに設定可能です。

設定ごとに最大で半分の挽き目を設定できます。

各設定を終えたら豆挽きを行います。

教育を受けた専門社員およびサービス担当者のみ使用可能。機能は PIN コードで保護されています。


ソフト

▷ソフト
73° -ジ


温度
挽き目設定

抽出圧表示

ここでは抽出圧表示を有効化できます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効



抽出圧表示

ホッパー

ここでは使用する豆とパウダーの種類の名前を記録します。

通常、ここではエスプレッソとカフェレムが対象です。



ホッパー

3基のグラインダーと1基のパウダーホッパーを備えているマシンで有効です。

Bluetooth (オプション)

この機能ではオプションのWMF Bluetoothスティックが必要です。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

- * Bluetoothはここで有効にします
- * 操作パネルを開く
- * WMF Bluetoothスティックを操作パネルの背面に挿し込む
- * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる



Bluetooth

S/M/L機能

ここではS-M-L機能が有効です。
マークとテキストは変更できません。
飲料サイズは標準サイズ (M) を基本にしますが変更可能です。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効



スモール

新たに有効にするサイズ[®]の飲料レベル[®]のデフォルト変更係数。

標準値: 75%

ラージ

新たに有効にするLサイズ[®]の飲料レベル[®]のデフォルト変更係数。

標準値: 125%



カップ容量 S/M/L
▷ソフトウェア
▷飲料
45° - ジ

ヒント

飲料サイズ (S/M/L) はレベル[®]で定義付けし、飲料ボタンで直接利用可能です。

シロップ

ここでは、シロップに名前を付けて、マークを割り当てることができます。

さらに、注ぐ量の選択を有効にできます (シングル、ダブル、大)。



シロップ ステーションに利用可能な詳細
設定オプション
▷シロップ ステーション取扱説明

ミルク

ここでは、ミルク1とミルク2に名前とマークをが割り当てられます。



栄養成分情報

ここではグラインダ[®]、ホ[®]-ショナ[®]、ミルク、ミルクフォーム毎に栄養成分値および材料に関する詳細情報が記録されます。概要が確認できます。



栄養成分情報

4.11 言語

パネル上で使用する言語を設定します。使用できる言語が英語で表示されます。



4.12 エコモード

エコモードが「有効」になっているとき、最終の飲料供給終了から10分後にスチームボイラの温度が下がります。飲料ボタンは点灯したままです。温度が下がっている状態でミルク入り飲料を供給するときは、コーヒーマシン加熱のために15秒間ほど必要になります。飲料作成は加熱の後に始まります。



▷ エコモード
70°C -ジ

エコモード

選択ボタン: オ オ タマー
標準値: オ



ここではエコモードを有効にできます。

モード 表示

供給可能表示では、ヘッド - にモード のアイコンが表示されます。

2つのステータスがあります。

モード 「有効」

コーヒーマシンは現在温度低下段階にあります。



モード 「レディ」

モード は待機時間に応じて制御され、最後に飲料供給してから10分後に有効になります。



クイックスタート

モード 設定が「有効」である場合には、モード のアイコンが供給可能表示に表示されます。



アイコンにタッチする場合、モード がすぐに有効になります。

アイコンが「有効」に切り替わります。

4.13 USB

USB接続口からはデータの交換が可能です。

USBスティックが差し込まれると、機能がすぐに有効になります。

USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



レシピをロードする

ここでは、USBスティックに保存されているレシピがコーヒーマシンにロードされます。



飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込みます。



レシピの保存

ここではコーヒーマシンの最新のレシピがUSBスティックにエクスポートされます。



レシピの保存

レシピをPDFファイルとしてセーブする

有効なレシピ、すべての顧客レシピ、またはすべての工場設定済みレシピをPDFファイルとしてエクスポートできます。



レシピをPDFファイルとしてセーブする

カウンターのエクスポート

ここではコーヒーマシンの最新のカウンターステータスがUSBスティックにエクスポートされます。



カウンターのエクスポート

HACCPエクスポート

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここにHACCP実施の証明としてエクスポートされます。



HACCPエクスポート

データのバックアップ

ここではマシンのデータ、飲料のデータ等の設定データがUSBスティックに保存されます。



データのバックアップ

データをロードする

マシンデータや飲料データなどの保存されているデータは、USBスティックからコーヒーマシンにロードされます。
(PINで保護可能)



データをロードする

言語をロードする

利用できる場合には、他のパシ言語をUSBスティックからコーヒーマシンにロードします。



言語をロードする

ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。



ファームウェアの更新

5 カスターケア

5.1 カスターケアについての安全上の注意事項

コーヒーマシンが正常に作動し、コーヒの質品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なクリーニング[®]は不可欠となります。



健康被害のおそれ/衛生面

- ミルクは非常に傷みやすい食品です。ミルクシステムの中で細菌が繁殖して健康に悪影響を与える恐れがあります。
 - > ミルクシステムは毎日クリーニング[®]してください。
 - > 必要に応じてシリコンキャップ[®]を取り外して清掃します。
 - > ミルクホースは定期的に交換してください。
 - > ミキサーホースは定期的に交換します。
 - > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
 - > HACCPクリーニング[®]コンセプトに従ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のコーヒーマシンの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
 - > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのクリーニング[®]を行ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はクリーニングプログラム用に最適に調整されています。
- > WMFのクリーニング剤およびｶｽﾀｰ除去剤だけを使用してください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり

- クリーニング中に供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > クリーニングの前には、必ず「クリーンロック」でﾀｯﾁﾊﾟﾈﾙをロックしてください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

ﾀｲﾐｯｸﾞﾐﾙｸ

ミルクの割合を含んで飲料が119分全然供給されない場合、自動ミルクシステムリンスを起動して新しいミルクを補充します。

注意事項

注意事項

- 次にｺｰﾋｰﾏｼﾝの電源を入れる際、ミルクが再充填されこれを以てクリーニングプログラムが完了します。

注意事項

5.2 クリーニング 頻度の概要

カスタマーケア					説明
毎日	毎週	定期的	自動		
クリーニング プログラム					
x				システムクリーニング	○ ▷79° -ジ
x				ミキサー-リンス	○ ▷81° -ジ
x				ミルクシステムのクリーニング	○ ▷81° -ジ
			x	フォーマー-リンス	○ ▷82° -ジ
手動クリーニング					
x				操作パネルクリーニング (クリーンロック)	▷83° -ジ
x				コーヒー-が受けのクリーニング	▷83° -ジ
x				トリップ-トレ-のクリーニング	○ ▷84° -ジ
x				外装のクリーニング	▷84° -ジ
		x		収集トレ-のクリーニング	▷85° -ジ
		(x)		コンヒ 供給口を手作業でクリーニング シリコンキャップ のクリーニング	○ ▷85° -ジ
x	x			オートスチ-ムスチ-ム/ス ルのクリーニング	○ ▷86° -ジ
(x)	x			ミキサー-のクリーニング *	○ ▷87° -ジ
		x		コーヒー-豆ホッパ -のクリーニング	▷89° -ジ
		x		パ °ウタ °-ホッパ -のクリーニング ° *	▷90° -ジ



- 毎日 =最低毎日1回、必要に応じて随時
- 毎週 =毎週1回クリーニング
- 定期的 =必要に応じて定期的を実施
- 自動 =自動プログラム
- (x) =必要に応じて
- * =オプション(装備により異なる)
- 説明 =メニューの説明▷「ソフトウェア」▷「カスタマーケア」使用可能

5.3 クリーニングプログラム

5.3.1 システムクリーニング

システムクリーニングは自動クリーニングプログラムであり、WMFクリーニングタブレットでコーヒーマシンのコーヒーステムをクリーニングします。
 ミルクシステムクリーニングとミキサーリンスはシステムクリーニングの一部です。
 合計で約10分かかります。

動画による説明

- ▷ メインメニュー
- ▷ カスタマーケア
- ▷ 説明

▷ ショップステーションのクリーニング手引き



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中に供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

注意

安全性についての章を参照
 ▷ 78ページ以降



クリーニングプログラムは、パネルによってシステムクリーニングの各ステップをガイドします。
 表示される通知に従ってください。

ヒント

システムクリーニング



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり



- ・ クリーニング中、熱いクリーニング液がホッパ-内に注がれます。
- > クリーニングホッパ-はクリーニング後に注意して中身を空にします。

注意

安全性についての章を参照
▷76°-ジ以降



クリーニングホッパ-は熱いままクーラーに置いてはなりません。クーラーが破損する恐れがあります。

重要

保証の章に注意
▷102°-ジ以降

システムクリーニングには青色の特殊クリーニングコンテナのクリーニングが必要です。

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **システムクリーニング** をタッチする
- * パ-ネルに表示される指示に従って操作



5.3.2 ミキサーリンス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- ・ リンス中はコンビ® 供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミキサーのリンスは単独で開始できます。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミキサーリンス** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

動画による説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明

5.3.3 ミルクシステムのクリーニング



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- ・ リンス中はコンビ® 供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミルクシステムクリーニングは単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていなかった時に有効です。

ミルクシステムクリーニングではミルクシステムクリーニングを行います。ミルクシステムクリーニングには青色のクリーニングコンテナのクリーニングおよびミルクシステムの特種クリーニングタブレットが必要

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミルクシステムのクリーニング** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

動画による説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明

5.3.4 フォーマーのリス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- ・ リス中はコップ供給口から熱湯が出ます。
> リス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

フォーマーのリスは単独で開始できます。また、ミルクフォーマーのリスも自動的に行うことができます。最後のミルク飲料供給が終わって3分経つと、自動で開始します。フォーマーのリスが自動で始まる前に、警告信号音が鳴ります。

フォーマーのリスが有効になっているときは、飲料の入ったカップをコップ供給口の下に置かないでください。

※ カスタマーケアメニューを呼び出す

※ **フォーマーのリス** をタッチする

※ パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

ダインミックミルクの機能を使うと、リスの水が作業中に排水されます。

動画による説明

▷メニュー

▷カスタマーケア

▷説明

5.4 手動クリーニング

WMFかたマ-ケア® のための注
文番号
▷ アクセサリーとスチールパーツ
107ページ

5.4.1 操作パッドのクリーニング (クリーンロック)

※ **クリーンロック** をタッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパッドのクリーニングを行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパッドが再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料供給が開始されると、怪我するおそれがあります。
- > クリーニングの前には、必ず「クリーンロック」でタッチパッドをロックしてください。

注意

安全性についての章を参照
▷ 7ページ以降



- クリーニング中にパッド表面に傷をつけるおそれがあります。
- > パッドは必ず湿らせた布でクリーニングしてください。洗剤は使用しないでください。
- > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷ 102ページ以降

5.4.2 コーヒー受のクリーニング (挽いた豆のスライド / オプション)

※ コーヒー受を空にし、流水で洗浄

※ 湿らせた布でクリーニングする

※ コーヒー受は乾燥させてから再び設置する



- > コーヒーマシンのシューターとドリフトレイの目皿を毎日クリーニングしてください。
- > 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

重要

保証の章に注意
▷ 102ページ以降

5.4.3 ドリップトレのクリーニング



火傷のおそれ



- ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
- クリーニング後などでカップ台・ドリップトレを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
 - ドリップトレは慎重に動かしてください。
 - 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。
 - カップ台・ドリップトレが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

* カスタマーケアメニューを呼び出す

* **ドリップトレのクリーニング** をタッチする

カップ台を上に移動させる

* カップ台・ドリップトレ [1] の右下にあるロックを外す

* カップ台・ドリップトレ [1] を引く

* ドリップトレ [2] を取り除く

* 両方のドリップトレを入念にクリーニングする

* ドリップトレを最後に清潔な飲料用水でリンスする

* ドリップトレを乾かし、元の位置に装着する

5.4.4 外装のクリーニング

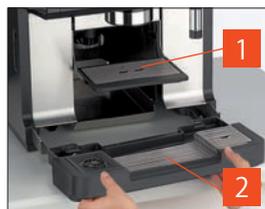


- クリーニング中にパネル表面に傷をつけるおそれがあります。
 - 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
 - 刺激の強い洗剤は使わないでください。
 - クリーニングには柔らかい布を使用してください。
 - 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Purargan®クリナーの使用をお奨めします。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



手順
▷ソフトウェア▷カスタマーケア
42ページ以降

シロップステーションのオプションを使う
▷シロップステーションのクリーニング手順

重要

保証の章に注意
▷102ページ以降

5.4.5 収集トレのクリーニング

収集トレは定期的に取り出してクリーニングします。
収集トレに少量の水がある場合、これは漏れを表すのではなく、システム上の理由によるものです。
収集トレはコーヒー杯受けの下にあります。
収集トレは必要に応じてクリーニングします。

- * コーヒー杯受けを外す
- * 収集トレを取り外し、清潔な飲料水で入念にクリーニングする
- * 収集トレを乾燥させ、設置する
- * コーヒー杯受けをセットする



5.4.6 コヒ[®] 供給口を手作業でクリーニング



コヒ[®] 供給口とフォームは取り外してはいけません。

定期的にコヒ[®] 供給口の汚れを軽く湿らせた布で拭き取り、供給口を適切なブラシでクリーニングしてください。

シリコンキャップ[®] のクリーニング

シリコンキャップ[®] は必要に応じてクリーニングします。

- * シリコンキャップ[®] をコヒ[®] 供給口から取り外す
- * シリコンキャップ[®] は流水で入念に洗浄する
- * シリコンキャップ[®] を再びセットする



シリコンキャップ[®] の使用
▷メインメニュー
▷ガタマ-ケア
▷手順

重要

保証の章に注意
▷102°F (38°C) 以降

5.4.7 オートスチームスチームノズルのクリーニング



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 供給中は必ず適切な飲料容器を下に配置します。

⚠ 注意

動画による説明

▷ メインメニュー

▷ カスターゲア

▷ 説明

毎日

- * 5 mlのWMF液体洗剤またはクリーニングタブレットを高さのある容器に入れた0.5 Lの温かい飲料水で溶かします
- * スチームノズルを洗浄液に浸けて、スチームキまたは自動スチームキを短くタップします

推奨浸置時間: 30分

* ブラシでクリーニング

* 水で入念に洗浄

* スチームボタンをタッチする

スチームにより、スチームノズルの穴から分解された残留ミルクが取り除かれ、残っている洗剤が除去されます。



毎週

- * スチームノズルを回して外す
- * スチームノズルを最低5時間は洗浄液に浸けます
- * ブラシでクリーニング*
- * 冷水で入念に洗浄する
- * スチームノズルをオートスチーム供給口にねじ締めます
- * スチームノズルを清潔な水が入った容器に入れる
- * オートスチームボタンを短く押す
- * 湿らせた布でスチームノズルを拭く



5.4.8 ミキサのクリーニング*

使用するパウダーに応じて、クリーニング回数を増やしてください。



火傷のおそれ

- ミキサホースがしっかりと差し込まれていないと、熱湯や高温のパウダー飲料が不意に流れ出ることがあります。
- > ミキサホースはしっかりと差し込んでください。

- * 操作パネルを上に動かす
 - * コンビ供給口のミキサホースを引き、グリップを持ってミキサカップを上にあげます
- これでミキサの羽根車が見えます。

毎日

- * ミキサカップを取り外す
- * ミキサカップを4つの部品に分解する
- * 部品は流水で入念に洗浄する



注意

安全性についての章を参照
▷ ページ以降

ミキサのクリーニング

- ▷ メインメニュー
- ▷ ガスターマケア
- ▷ 説明



必要に応じて(毎週)

- * 5 ml のWMF特殊洗剤または専用クリーニングタブレット1個を0.5リットルの温かい飲料水と混ぜる
- * 4つの部品はすべて少なくとも4時間はクリーニング液に浸す
- * 4時間経過後、再度流水で入念にすすぐ
- * パウダーホッパーを外し、ミサカップの投入口をクロスまたはブラシでクリーニングする
- * 部品を完全に乾燥させます [1]



 組み立てにあたっては、全ての開口部が必ず同じ方向を向くようにしてください。

- * プローブディスク [2] を図のように配置します
挿入後に緑色の側面が見えます。
- * ミサカップにミサホースを差し込む
- * ちゃんとロックされるように、ミサカップを再度設置する
- * ミサホースをコンロ供給口に挿入



5.4.9 コーヒー豆ホッパーのクリーニング

コーヒー豆ホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨：毎月1回。



怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > コーヒー豆ホッパーを取り外す前に、ヘアネットを被り、髪の毛を保護してください。

注意



指などを挟むおそれ/

怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > コーヒーグラインダーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

注意



- > コーヒー豆ホッパーは絶対に食器洗い機で洗浄しないでください。

重要

※ 操作パネルを上にも動かす

操作パネル裏の右側に、オン/オフボタンがあります。

※ オン/オフスイッチを短く押す

コーヒーマシンのスイッチが切れます。

※ 主電源からプラグを抜く

※ マルチツールを使い、コーヒー豆ホッパーのロックを反時計方向に回して外す

※ コーヒー豆ホッパーを持ち上げて外す

※ コーヒー豆ホッパーを完全に空にし、軽く湿らせた布巾で丁寧に汚れをふき取る



ロックを90°回す



- ※ コーヒー豆ホッパ[®] -を完全に乾かす
- ※ コーヒー豆ホッパ[®] -に豆を投入して元通り装着
- ※ マルチツールでロックを時計方向に閉じる

5.4.10 パウダ[®]-ホッパ[®]-のクリーニング

使用するパウダ[®]-ホッパ[®]-に応じて、クリーニング回数を増やしてください。

- ※ 操作パネルを上に動かす
操作パネル裏の右側に、オン/オフボタンがあります。
- ※ オン/オフスイッチを短く押す
コーヒーマシンのスイッチが切れます。
- ※ 主電源からプラグを抜く
- ※ マルチツールを使い、パウダ[®]-ホッパ[®]-のロックを反時計方向に回して外す
- ※ パウダ[®]-ホッパ[®]-を後に傾け、持ち上げて外す
- ※ パウダ[®]-ホッパ[®]-を完全に空にする
- ※ 前後のエアナットを外す
- ※ ホッパーのスクリーンを引き出す
- ※ パウダ[®]-ホッパ[®]-に付着した汚れを軽く湿らせた布巾で丁寧にふき取る
- ※ ホッパーのスクリーンの個々の部品を入念にクリーニング
- ※ パウダ[®]-ホッパ[®]-と個々の部品を完全に乾燥させる
- ※ ホッパーのスクリーンを再び組み立てて設置し、エアナットを締める



ホッパーと個々の部品
ホッパースクリーン

! 排出口が正しい位置にきていることを確認してください。

重要

- ※ パウダ[®]-ホッパ[®]-にパウダ[®]-を充填して元通り装着
- ※ マルチツールでロックを時計方向に回して閉じる

6 HACCPクリーニングコンセプト

飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにとさらされることがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。設置状態が適切で、ガタメークやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。コーヒーマシンのガタメークとクリーニングが適正になされていない場合には、供給されるミルク飲料は食品衛生の面から危険があります。

HACCPクリーニングコンセプトの要件を満たすために、以下の項目をお守りください。

ミルクシステムを毎日消毒

- ガタメークの章にあるミルクシステムのクリーニングについての指示に従ってください。これにより、業務開始時にシステムに細菌がない状態を確保できます。



インフォメーションパッド  からは前回のクリーニングのプロトコルを呼び出すことができます。
USBパッド  から、HACCPプロトコルをエクスポートできます。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社のHACCPクリーニングコンセプトをご活用ください。

HACCPエクスポート
▷75° -ジ

WMFが認可した洗剤のみを使用してください。

ガタメークの章を参照
▷76° -ジ以降

ヒント

業務開始時は常に新たに開封した冷蔵ミルクを使用

- 未開封のロングライフミルクは通常細菌は存在しません。業務開始にあたっては常に冷蔵しておいたミルクパックを新しく開けてお使いください。
- ミルクパックを開封する時には衛生面に特に注意してください。汚れた手やツールに付着した細菌が、ミルクパックを開く際に入り込むことがあります。

ミルクは冷蔵してください!

- 必ず冷蔵した予備の新しいミルクパックを用意しておいてください。
- ミルククーラーを使わずにマシンを使用するときは、ミルクをできるだけ早く使い切ってください。必要に応じてミルクを時々冷やしてください。
- 冷蔵していたミルクを開封後少ししか使わないときは、業務中も冷蔵してください。

推奨:

乳脂肪分1.5%のロングライフ牛乳を使用してください。

営業開始時のミルク温度は約6~8℃になっていなければなりません。

設定によっては1リットルのミルクで約20杯分のカフェーノを作れます。

WMFでは様々な冷却方法を利用できます(WMF小型クーラーまたはWMFミルククーラーなど)。

HACCPクリーニングコンセプト

月 _____ 年 _____

冷蔵されたロングライフのみを使用してください。これを守らないと、微生物や細菌により健康に被害がおよぶ恐れがあります。
パッケージ飲料に使用するパッケージには必ず賞味期限内のものを使用してください。

クリーニングステップ:

1. マシンクリーニングを実施する
▷取扱説明書、章「カスタマーケア」
- 2a. ミルクシステムをマニュアルでクリーニング
毎日標準、毎週アラブ・アラブ・クリーニング
- 2b. 毎日のミラー・ガラス
▷取扱説明書、章「カスタマーケア」
- 3a. 作動開始から4時間経過したら、ミルクシステムのリスとコピレ供給口の交換を実施 (特に供給数が少ない場合や、ミルクが冷蔵されていない場合は必須)
- 3b. 毎週のミラー・クリーニング および製品おが - (豆パッケージ) の定期的クリーニング
▷取扱説明書、章「カスタマーケア」
4. 一般的なマシンのクリーニング

□	クリーニング ステップ				署名
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

□	クリーニング ステップ				署名
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加片除去

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加片抜き作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスの時期はコーヒーマシンの使用期間により決まり、パネルに通知されます。WMFサービスによるメンテナンスでは、同時に抽出装置の加片除去も実施されます。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMFサービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外には行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▶メッセージと注意事項
94ページ

7.2 WMF サービス

WMFサービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

WMF GmbH
WMF Platz 1
D-73312 Geislingen (Steige)

重要!

メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMFサービスまでお問い合わせください。電話番号はコーヒーマシンに貼ったラベルと納品書に記載されています。

8 メッセージと注意事項

8.1 操作上の通知

コーヒー豆を補充

- ※ コーヒー豆ホッパ[®]を補充(表示参照)
- ※ 確認:
 - コーヒー豆ホッパ[®]のロックが解除されていますか?
▷加タマケア
 - コーヒー豆がスムース[®]に落ちません。
- ※ 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

- ※ 水道の栓を開き、確定する

コーヒー加受けを空にする

- ※ コーヒー加受けを空にする

コーヒー加受けがありません

- ※ コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルタを交換

- ※ WMF サービスに連絡
浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。
- ※ 必要な場合、WMF サービスに連絡

エラーは本取扱説明書で確認する

エラー番号の表示

エラー通知と不具合
▷95⁸ -ジ

WMF サービスに連絡

エラー番号の表示

エラー通知と不具合
▷95⁸ -ジ

サービスメッセージ

この通知がパネルに表示されると、サービスメンテナンスが必要です。

- ※ WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本の手順は次の通りです。

- * コーヒーマシンのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行

多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。

この操作で解消できなかった場合:エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ポットの照明が消えます。飲料ポットが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

WMF 9000 S+には診断プログラムが装備されています。発生したエラーはパネル上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。

現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パネル上  が表示されます。

- *  をタッチする
エラー通知およびエラー番号が表示されます。



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約 1 秒後に反応し、カになりません。
不具合の解消のため(ソフトウェアのアップデートなど)、オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入れます。

注意事項

8.3 エラー通知なしの不具合

不具合図	対応								
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクが容器に入っているのにミルクフォーム/ミルクが出ない 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクホースが折れたり、押しつぶされたりしていないか確認 * シリコンキャップを取り除き、清掃する * ミルクシステムクリーニングを実行 ▷カスタマーケア ▷ミルクシステムのクリーニング、81ページ 								
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>バーシックミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * ミルクノズルを交換 <p>適切なミルクノズルをコンビ供給口で使用します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ミルクノズル</th> <th>3 kW</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>• とても冷たいミルク (8 °C 以下)</td> <td>グリーン</td> </tr> <tr> <td>• 冷蔵されているミルク (8 ~ 16 °C)</td> <td>白</td> </tr> <tr> <td>• 冷蔵されていないミルク (16 °C を超過)</td> <td>キャラメル色</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> * コンビ供給口をクリーニング ▷カスタマーケア ▷ミルクシステムのクリーニング、81ページ <p>エラーが解消されない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> * アクセサリの他のミルクノズルを使用する 	ミルクノズル	3 kW	• とても冷たいミルク (8 °C 以下)	グリーン	• 冷蔵されているミルク (8 ~ 16 °C)	白	• 冷蔵されていないミルク (16 °C を超過)	キャラメル色
ミルクノズル	3 kW								
• とても冷たいミルク (8 °C 以下)	グリーン								
• 冷蔵されているミルク (8 ~ 16 °C)	白								
• 冷蔵されていないミルク (16 °C を超過)	キャラメル色								
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>イージーミルク/ダッチミックミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 設定された温度がミルクの温度と一致するか確認 <p>ダッチミックミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 品質チェックを実施する 								

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォーム供給時にミルクが飛び散る • ミルクが熱くなりすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクシステムがクリーニング[®]されているかを確認 * ミルクシステムをクリーニング[®] ▷カスタマーケア▷ミルクシステムのクリーニング[®]、81ページ * 使用しているミルクが十分冷蔵されているかを確認する
<ul style="list-style-type: none"> • パウダー-飲料供給なし 	<ul style="list-style-type: none"> * ミキサーカップ[®]をクリーニング[®] * ホースが折れていないかチェック * クリーニング[®]とリンスを必要なら毎日でも実施 ▷カスタマーケア▷ミキサーをクリーニング[®]、ページ 87 * パウダー-量を減らす * 水の量を増やす

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンからは常に少量の凝縮水や水、蒸気が流れ出る可能性があります。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

コーヒークラインダ®

- 異物が混入するとコーヒークラインダ® が破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒードリッパーに異物が混入しないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷102°F -ジ以降
設置・使用条件
▷178°F -ジ以降

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 5°dKH(炭酸硬度)以上の飲料水向けには、WMF浄水フィルターをご使用ください。WMFサービスが推奨する浄水フィルターを使用しないと、コーヒーマシンを破損するおそれがあります(カルキ付着など)。
- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 水道に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの(数日/数週間)後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システムクリーニング
クリーニングプログラム
79ページ

9.2 ガイドライン

メーカー: WMF GmbH, 73312 Geislingen (Germany)
本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令
2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する
全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連
する全ての指令を遵守していることを宣言します。
当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、こ
の解説は有効性を失うものとなります。技術関連資料
の作成: WMF GmbH。

本機には適合解説書の原本が同梱されています。

本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録 (LFGB)、
ドイツ消費財条例 (BedGgstV)、EU10/2011、EC規則
1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害
のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条
例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠
しています。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用
されます。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/
EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止され
ています。

EC規則No. 1935/2004に準拠したトレーサビリティを確立
し、EC規則No. 2023/2006に準拠した適正製造規範
に基づく製造を確実にを行うことを、当社は保証いた
します



廃棄の際には、WMF サービスまで
お問合せください。

連絡先
▷ 938⁰ -ジ

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

事務所やドアでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがカスタマーケア措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません(ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンのクリーニングには、必ずWMFの指定によるコーヒーマシンのWMF特殊洗剤(タブレット)とミルクシステム用のWMF特殊洗剤(液体)をご使用ください。

装置の加熱除去はWMFサービスエンジニアにお任せください。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容(▶メンテナンス)に従ってください。

クリーニング 頻度の概要

▷78° -ジ

HACCP

▷91° -ジ

WMF特殊加熱除去剤

▷アクセスリとスヘアパーツ

107° -ジ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
> 設置・使用条件を守ってください。

重要

設置・使用条件
▷17ℓ/分以下

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- 日常的な使用で消耗する部品全般。パッキン、ミキサー、抽出装置などもこれに含まれます。
- 天候の影響、ホウライの加圧堆積、化学的/物理的/電気化学的/電気的影響による不具合。
- 現場の水の硬度により浄水フィルタの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルタを使用しないで不具合に至った場合。
- 本機の取り扱い、メンテナンス、カスタマーケアに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- WMF純正スパークパーツを使用しない場合や、マシンが購入者か第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または十分な注意をとらなわなない取り扱いの結果として生じた不具合。
- 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

メンテナンス
▷93ℓ/分以下

付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外形	幅390 mm 高さ 744 mm (コーヒ豆ホッパーおよびロック含む) 奥行590 mm (ドリフトロー(小)のマージンを含むと 598 mm)
コーヒ豆ホッパー	大... 約 1,150 g、小... 約 730 g ⁽¹⁾
パワダホッパー (オプション)	約1,200 g ⁽²⁾
空重量	約 76 kg (3 グラインダ、1 ミキサ、1 ミルク)
水道	TW10 (DN 10、少なくとも DN 6 または 3/8 インチ) メインロックコックとフィルタ (メッシュ幅0.2 ~ 0.25 mm) 付きの ホース接続 (現場側で用意) ⁽³⁾ 2 l/min (低圧) で少なくとも 0.05 MPa (0.5 bar) の水圧。最大 0.6 MPa (6 bar)。低圧: 最小 DN 6 (1/4 インチ)。最大供給温度 35 °C。新品のコーヒーマシンおよび/ま たは浄水フィルタに付属しているホースセットを使用するこ と。使い古したホースは再使用しないでください。
水質	5 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄 水フィルタをご使用ください。
排水パイプ	ホースは DN 19 以上、最低傾斜は 2 cm/m
NNを超える高さでの 使用	<2,000 m

予告なく仕様変更することがあります。

- ⁽¹⁾ カップ容量はコーヒ豆のサイズによって変化します。
- ⁽²⁾ オプションのパワダホッパー装着時のみ。カップ容量は使用するパワダの種類によって変化します。
- ⁽³⁾ コーヒーマシンの給水接続には本規格 (IEC 60335-2-75) が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしなくてはなりません。

定格消費電力	4.0 kW
電圧	200 V - 50/60 Hz (2/PE)
ヒューズ (現場側で用意)	2 x 24 A
照明	LED
保護方式	IP X0
保護等級	等級
定格圧力	ホーイア 0.5 MPa (5 bar) スチームホーイア 1.6 MPa (16 bar)
連続騒音レベル (Lpa)	<70 dB (A) ⁽⁴⁾
周辺温度	+5 °C ~ +35 °C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。
設置面/水しぶき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁴⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベル (Lpa (スチーム) と Lpa (インパルス)) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

取り付け時の間隔	機能上、およびサービス・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンポネントから50 mm以上離して設置してください。背面では50 mm以上の安全距離が必要です。コーヒーマシンの前に800 mmの最小作業スペースを設けることを推奨します。ホッパーの上に200 mm以上の空間を設けることを推奨します。床面からマシン設置面までは最低850 mmの高さを確保すること。コーヒーマシンの各種接続をコーヒーマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってコーヒーマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。
浄水フィルタの取り付け寸法	浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしなくてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。

本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schukoプラグソケットか使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310

VDE 0800-2-310に準拠した5極CEE/CEKONソケットか使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のためにWMF Fサビシヅニアか同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください (DIN EN 50310 VDE 0800-2-310を参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子 (等電位ボンディング) の取り付けは、必要に応じてWMF Fサビシヅニアが行います。

付録:アクセサリとスハ°アハ°-ツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
コンビ°供給口				
1	個	シングル供給口のシリコンキャップ°	33 4100 5000	全て
1	個	ダブル供給口のシリコンキャップ°	33 4100 6000	全て
1	メートル	ミルクホース	00 0048 4948	全て
ホッパ°-(コーヒー豆および粉)				
1	枚	ホッパ°-の表記ラベル	33 2624 7000	全て
1	個	ロック式フタ	33 2867 2099	全て
1	個	スハ°アキー	33 2071 8100	全て
1	個	ミキサーカップ°、フル	33 2895 4000	ハ°ウタ°-
1	個	ミキサーホイール	33 2895 5000	ハ°ウタ°-
1	個	ミキサーカップ° 供給口	33 2544 9000	ハ°ウタ°-
1	個	コーヒー軽量スプーン	33 0742 4000	全て
1	個	マルチツール	33 2323 1000	全て
コーヒーか受け				
1	個	コーヒーか受け(テ°サ°インシット付き)	33 2789 8099	全て
ド°リップ°トレイ°/ド°リップ°グ°リッド°				
1	個	ド°リップ°トレイ°、大	33 2921 2099	全て
1	個	ド°リップ°グ°リッド°、大型	33 2537 0000	全て
1	個	ド°リップ°トレイ°、小(カップ°台)	33 2904 3099	全て
1	個	ド°リップ°グ°リッド°、小(カップ°台)	33 2537 1000	全て
1	個	スチ°ムジ°エットスチ°マープレート	33 4095 2000	全て
1	個	スチ°ムジ°エット使用ド°リップ°グ°リッド°	33 4095 1000	全て
1	個	セルファ°ヒ°ス用ド°リップ°グ°リッド°(大)	33 2537 0000	全て

数量	単位	名称	注文番号	装備
WMFカスターマーケア°ログ°ラム				
1	ボ°トル	WMF ミルクシステム洗浄剤 (液体)	33 0683 6000	全て
1	パ°ック	WMF クリーニング°タブ°レット(100個)	33 2332 4000	全て
1	パ°ック	WMF クリーニング°タブ°レット (ミルクシステム用、10 g)	33 2622 0000	
1	個	パ°イフ°クリーナー	33 0350 0000	全て
1	個	クリーニング°ブラシ	33 1521 9000	全て
1	チューブ	WMF 「パ°ッキン用グ°リス」 Molykote 5 g	33 2179 9000	全て
1	個	クリーニング°コンテナ、ダ°イナミックミルク	33 2593 6000	ダ°イナミックミルク
1	個	クリーニング°コンテナ7タ、ダ°イナミックミルク	33 2593 7000	ダ°イナミックミルク
書類、取扱説明書				
1	個	文書 「WMF 9000 S+ 取扱説明」	33 2436 0060	全て

索引

- 2.コーヒー種類 40
- 2.ミルク種類 40
- アクセリとスベアパーツ 107
- アニメーション 42
- イベントの表示 67
- インフォメーション 59
- エモード 19, 65, 70, 73
- エラー表示 54
- エラー通知と不具合 95
- エラー通知なしの不具合 96
- オートスチーム 19, 27
- オートスチームスチーム/ミルクのクリーニング 86
- オン/オフ タン 19
- ガイドライン 100
- カンター 60
- カンターのエキスポート 75
- 加熱ターゲア 41, 59, 76
- 加熱ターゲアについての安全上の注意事項 76
- カップ オーマー 28
- カップ サイズ 54
- カップ サイズ 調整 24, 39
- カップ 容量 45, 54
- カップ 容量選択 24
- カップ 高さ 50, 51
- カフェイスルコーヒー 40
- 加熱除去 59
- クリーニング PIN 62
- クリーニング プログラム 79
- クリーニング後にミルクシステムを準備 43
- クリーニング 頻度 78
- クリーニング 42
- コーヒー受け 19, 32
- コーヒー受けのクリーニング 83
- コーヒー脱落し(オプション) 32
- コーヒーラインターゲアを選択 50
- コーヒーの品質 49
- コーヒーマシンに対する危険 98
- コーヒーマシンのスイッチを入れる 23
- コーヒーマシンの各部名称 18
- コーヒー粉の量 48
- コーヒー豆ホッパ - 19, 30
- コーヒー豆ホッパ - のクリーニング 89
- コンビ 供給口を手作業でクリーニング 85
- サービス 59
- サイド照明 19
- サマータイム 65
- システム 66
- システムクリーニング 41, 79, 80
- スイッチ オフ 34
- スイッチ オンリス 43
- スタートストップ 46
- スタートストップ リーフロー 46
- スチームジ エット 53
- スチームジ エットパッド 19, 28, 38
- スチーム/ミルク 19
- スチームタン 19, 38
- スチーム供給(オプション) 26
- セルフサービス 52
- セルフサービスモード 52
- ソフトウェア 36
- タイマー 59, 63
- タイマー予定表とタイマーの設定 63
- タイマー削除 64
- タイマー 日別概要 64
- タイマー設定 64
- タッチパッドのキャリブレーション 68
- タンレット洗浄剤投入口 19
- ターゲアのバックアップ 75
- ターゲアをロードする 75
- ターゲアレイと照明 67
- ターゲアレイ照度減少 68
- ターゲア係数 56
- テキストと画像 50
- テクニカルデータ 103
- ドリップトレイのクリーニング 43, 84
- ドリップトレイ 33
- パッド - ホッパ - 30
- パッド - ホッパ - (オプション) 19
- パッド - ホッパ - のクリーニング 90
- パッドの照度 68
- パッドの背景 68
- パッド上の通知 37
- パッドパッド 52
- パッドパッド - コーヒーの濃さ 39
- ファームウェアの更新 75
- フィルタ容量 69
- フォーマーのリス 82
- リーフロー 46
- プログラム デイアレイ 67
- プログラム 59
- ホッパ - ショナー 71
- ホッパ - ステレクション 56
- ホッパ - タンの入れ替え 51
- ホッパ - タンリアクト 55
- ホッパ - タンリアクト(タイマー) 65
- ホットドリンク 19, 38, 53
- マニュアル投入パッド 19, 31, 40, 55
- ミキサーのクリーニング 87
- ミキサーリス 41, 81
- ミルクシステムのクリーニング 41, 42, 81
- ミルクシステムリス 42
- ミルクシステム補充 39, 43, 55

索引

- ミルクの保管温度 66
- ミルクの量 48
- ミルクフォーマー内蔵型コンビ 供給口 19
- ミルクフォームの選択 58
- ミルクミルクフォームの供給 29
- ミルクを接続する - WMFクーラー、WMFカップ・アッド・ケール (オブ ション) 29
 - メーカーコード 58
 - メインメニューの機能 37
 - メッセージと注意事項 94
 - メニューバット 19, 53
 - メニュー制御バット 37
 - メンテナンス 93
 - メンテナンスと加料除去 93
 - ユーザーに対する危険性 7
 - レベルについての備考 50
 - レベルのバックアップ 44
 - レベルの保存 75
 - レベルの変更 47
 - レベルをPDFファイルとしてセーブする 75
 - レベルをロードする 44, 74
 - コード 58
- 事前選択バット (オブ ション) 24
- 仕上がり品質 49
- 会計 60
- 会計PIN 62
- 使用目的 14
- 供給オブ ション 46
- 供給テスト 44
- 供給可能 36
- 供給可能表示 18, 19, 38
- 保証対象外となるのは: 102
- 保証請求 102
- 前回の抽出 59
- 収集トレイのクリーニング 85
- 取り付け時の間隔 105
- 取り外し可能なドリッパ トレイ (ドリッパ ケリッド 付き) 19
- 取扱説明書の記号 20
- 取扱説明書の記号とマーク 20
- 外装のクリーニング 84
- 外部会計 60
- 安全性 7
- 安全装置 7
- 定格消費電力 104
- 工場出荷時設定で用意されている追加オブ ション 47
- 序章 18
- 手動クリーニング 83
- 抽出圧表示 71
- 抽出温度 48
- 挽き目設定 70
- 操作 22
- 操作オブ ション 52
- 操作に関する安全上の注意事項 22
- 操作に関する部分 52
- 操作バネ 19
- 操作バネクリーニング (クリーニング) 83
- 操作上の通知 94
- 新しいPINを入力 62
- 時刻帯 65
- 時刻/日 63
- 栄養成分情報 39, 53, 73
- 概要 36
- 機能サイン 38
- 機能サイン供給可能表示 36
- 水質 103
- 水道 103
- 浄水フィルター - 59, 69
- 温度 70
- 湯量 48
- 無料設定 61
- 照明 67
- 熱湯レベル 19
- 熱湯ボタン 19, 40
- 熱湯供給 25
- 熱湯温度プリ選択 57
- 現在のレベル構成 47
- 用語集 21
- 硬度 69
- 硬度の計測 69
- 管理責任者の義務 101
- 総硬度 69
- 総硬度の計測 69
- 自動カップ 台 30
- 自動販売機 60
- 複数抽出 46
- 言語 73
- 言語プリ選択 55
- 言語をロードする 75
- 設定 43
- 設定PIN 62
- 設置・使用条件 17
- 設置面 104
- 説明 42
- 追加 47
- 追加オブ ションの削除 48
- 追加オブ ションの変更 48
- 飲料 44
- 飲料のキャンセル 24, 57
- 飲料のマークをロードする 74
- 飲料プリレベション 57
- 飲料ボタン 38
- 飲料ボタンと設定用バネ 19
- 飲料供給 23
- 飲料:大文字 68
- 高さ調整可能カップ 台 19, 30

B

Bluetooth 71

H

HACCPエキスポート 75

HACCPクリーニングコンセプト 91

P

PIN権限 61

S

S-M-カップ 容量 45

S/M/Lパット 39

S/M/Lホタン 24

S/M/L機能 45, 72

U

USB 74

W

WMF サービス 93

お

お客様窓口 58

シリーズ 8810 33 2436 0060 03.2020

お近くのWMF サービス:

© 2016–2020 WMF GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製、電子形式を使用して処理、複写、配布することは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH, Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書 (翻訳版) 日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

25.05.2020



DESIGNED TO PERFORM

wmf.com